

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	多血小板血漿による難治性皮膚潰瘍の治療効果の検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系・准教授・牧野輝彦
研究の概要	<p>【研究対象者】 2017年4月～2027年10月までに富山大学皮膚科を受診し、多血小板血漿（PRP）療法を施行された難治性皮膚潰瘍の患者さん</p> <p>【研究の目的・意義】 先進医療B「多血小板血漿による難治性皮膚潰瘍治療」によりPRP療法は効果的かつ安全な治療であることが示され保険収載されました。しかし、一方で末梢動脈の血流障害による皮膚潰瘍ではPRP療法開始前に血行再建が必要であるとの報告もあります。皮膚潰瘍の原因は多岐にわたっているため、潰瘍の原因によりPRP療法の効果に差がある可能性が示唆されていますが、これまで十分に解析されていません。本研究ではPRP療法が施行された症例を疾患ごとに分類し、その治療効果について評価します。</p> <p>【研究の方法】 難治性皮膚潰瘍を原因疾患（糖尿病性潰瘍、閉塞性動脈硬化症、膠原病・血管炎、熱傷、褥瘡、うっ滞性皮膚症）に分類し、それぞれの基礎疾患ごとで潰瘍の縮小率を求め、PRP療法が有効である疾患を調べます。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2027年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および英文誌での論文掲載</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>試料：本研修では試料の使用はありません。</p> <p>情報：難治性皮膚潰瘍に至った基礎疾患と診断根拠となる所見（病理検査や血液検査結果など）や、潰瘍周囲の血流評価（SPP、ABI、血管造影検査結果など）、感覚鈍麻などの神経症状の有無、開始前後の皮膚潰瘍面積、皮膚潰瘍治療の内容と経過</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学学術研究部医学系皮膚科学・准教授・牧野輝彦
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学学術研究部医学系皮膚科学・准教授・牧野輝彦
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7305 FAX 076-434-5028 E-mail dermatol@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系皮膚科学・准教授・牧野輝彦</p>